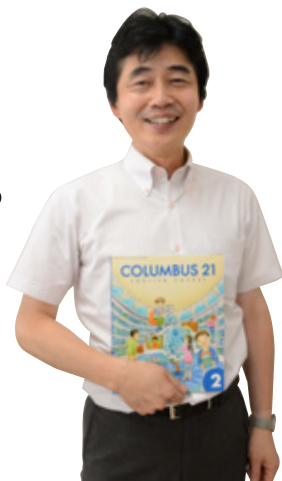


こう使う！

# COLUMBUS 21

ENGLISH COURSE 4

中学校英語教科書『COLUMBUS 21』は、英語学習への意欲を高める工夫を随所に設けています。実際にその工夫を生かした実践をされている学校を取材し、先生のインタビュー(前半)と授業リポート(後半)の2部構成でご紹介します。



## 都留市立都留第一中学校



山梨県都留市の中央部にある公立中学校。1947年、前身となる谷村中学校が創立。1965年、都留第一中学校と校名を改称し、昨年創立70年を迎えた伝統校である。各学年2~3クラス、213人の生徒が学ぶ。市内には、日本で唯一時速500kmで走行する超電導リニアモーターカーが間近で見られる施設「山梨県立リニア見学センター」がある。

## 三枝幸一先生

都留市立都留第一中学校 英語科教諭

大学では英語学を専攻。大学卒業後、山梨県内の公立校に勤務し、2010年より現職。2011年より山梨県中学校英語教育研究会事務局長。英語学習を通じ、生徒に世界とのつながりを感じ取れるようになってもらうことを目指している。

### 扉を活用して「スキーマ」を活性化

『COLUMBUS 21』では、各Unitの冒頭に扉のページが用意されています。本校では、Unitの本文に入る前に、扉の写真や設問をフル活用して、最初に生徒たちの「スキーマ」を活性化させます。スキーマとは、ある対象を理解しようとするときに働くイメージの枠組み、背景知識のことをいいます。

例えば、2年生教科書のUnit 4の扉(※1)では、“What do you know about New York?”という設問が載っています。Unitの本文に入る前に、「ニューヨーク」という言葉から思いつくことを考えさせたり、周囲の友達と話し合ったりさせることで、生徒たちの想像力を刺激し、スキーマを形成させます(p14-15の授業も参照)。それが、

生徒が主体的にUnitの学習に入って行くための素地になります。

ニューヨークは、ただ華やかな場所ということではなく、「9.11同時多発テロ」のような陰惨な出来事もあった場所。そういった光と影の部分に思いをはせることが、次のUnit 5でアヤが訪れる沖縄のイメージ形成にもつながっていくわけです。教科書の題材を自分のものにしていくプロセスの中で、多様な英語表現に出会うことで、生徒の思考が広がっていきます。

### 大まかな内容をつかむ

『COLUMBUS 21』の扉は、まずUnitの本文を生徒に通して聞かせることで、全体の内容を大まかにつかめるようになっています。最初に大まかな内容を把握してから、細かい部分を理

解していくという流れですね。私が授業で扉を扱うときは、教科書のUnit本文のストーリーを実写版で映像化した「COLUMBUS 21 指導用DVD」を何回も見せるようにしています。やはり最初から音声だけだと理解するのが難しい生徒もいるので、場面をイメージできる映像教材は必要だと思っています。

学習前の内容を視聴するので、未知の単語や文法事項が出てきます。映像内の場面や状況をヒントに、新しい語句の意味を推測しながら概要を捉えていきます。分からない部分があると、立ち止まって調べたくなくなってしまうのですが、英語学習においては、多少の分からない部分は必要以上に気にせず、分かる部分から想像を広げていくという姿勢が重要です。1文ずつ正確に和訳していくことも大切ですが、生徒には「曖昧さ」に耐えられたり、許せたりする力を養ってほしいと考えています。分からない部分があってもへこたれず、かといって固執しすぎることもなく、適度な疑問をもちつつ考えるようにすることで、本当の英語力が身につけていくと考



※1『COLUMBUS 21』2 p33 Unit 4の扉。扱う題材の紹介をはじめ、学習到達目標をCAN-DO形式で示してある。

えます。

英語がほかの教科と違うのは、必ずしも、一つ一つの要素を完全に理解してから次のステップへ進むという積み上げ式の「ボトムアップ」の学習方法が適切とは限らないという点です。むしろ、良質な英語をたくさんインプットさせ、すぐには分からなくてもいいから生徒たちに繰り返し触れさせることが重要です。そういった観点から、Unitの内容に入る前に本文を通して聞かせることは、大きな意味があります。

### できないことに気づかせる

また、扉には、そのUnitで何ができるようになるかという学習到達目標が「CAN-DO」形式で載っています。新しいUnitに入るときは、目標を明確化させるために、生徒たちにこの部分を必ず音読させています。

もう一つ心がけているのは、あえてUnitの導入部分で生徒に難題を出すことです。「CAN-DO」ならぬ「CANNOT-DO」ですね。全て教えてからやらせるのではなく、導入部分でやらせてみる。「これを英語で表現するとどうなる？」と言うと生徒はとまどいますが、そのとまどいが重要です。何ができないのかをしっかりと自覚させ、目標とのギャップを感じさせます。そして、「このUnitが終わった後にこういう表現ができるようになりたいね」と伝え、本文に入っていきます。それにより、生徒は見通しをもって学習に取り組むことができます。

Unitが終わった後も再び扉に戻り、目標のチェック欄にA~Dの自己評価を書き込ませています。学習の振り返りにも扉を活用することができます。

三枝先生の授業は次のページで紹介!

こう使う!  
**COLUMBUS 21**  
ENGLISH COURSE

# 三枝先生の授業を レポート!

**2年3組** (生徒数: 26名)

学習内容: Unit 4 導入 (第1時)

本時の目標: Unit 4のストーリーの概要把握



黒板には始業前から“Today's Goals”と書かれていた。チャイムが鳴り、三枝先生がそれを手で示しながら“Let's check it up, everybody.”と声を張り上げた。生徒たちは黒板を見ながら、今日の目標を大声で読み上げる。

**扉を活用して  
題材へのイメージを膨らませる**

冒頭の5分間はUnit 3の復習として、夏休みの予定をテーマにペアトークを実施。それが終わると、三枝先生が“What do you know about New York?”と切り出した。本時の内容であるUnit 4の扉に載っている設問だ。生徒は隣の席どうしで、ニューヨークについて知っていることを話し合う。自由の女神、ハンバーガー……。多様な単語が飛び交う中、“Have you ever been to New York?”「ニューヨーク行ったことある?」と三枝先生が問いかけた。続いて“I have been to New York. I took some pictures.”と、実際に先生が撮ったニューヨークに関する写真を紹介。自由の女神、タイムズスクエア、グラウンド・ゼロなどを紹介する中、時折“it's me!”と自分が写っている写真を見せると、「その写真欲しい!」と笑いが起こっていた。

- ① can understand the outline of the new story.
- ② knowing what kinds of things we are going to learn in Unit 4.

三枝先生が「これどういうこと?」と問いかけると、教室中から「新しいストーリーの概要を理解する!」などと元気な声が上がった。

**●Unit 4 Taku Gets Lost**

本文の内容:  
タクがティナに誘われ、夏休みにニューヨークを訪ねる場面。セントラルパークで二人は待ち合わせをするが、あまりの広さにタクは迷ってしまい……。

今日の  
授業はココ!

時	内容
第1時	導入(扉を活用し、ストーリーの概要把握、単元の学習目標の確認) ★
第2~5時	ストーリー内容の理解、Oral Introduction (Interaction)、音声変化聞き取り、Focus on Form、多様な音読練習、「Try It!」などのインプット・インテイク活動
第6時	アウトプット活動(「You Can Do It!」私の町~自分の町の名所を紹介しよう)

**映像資料を流し  
本文の概要を把握**

そして、Unit 4の本文にも出てくるセントラルパークの写真を見せ、“It's a very big park.”と説明。ここで、タクとティナがセントラルパークで待ち合わせをしている教科書の絵を見せ、“They have a problem. Taku gets lost.”と本文の内容に触れた。「さあ、タクはこの後どうしたのでしょうか?」と生徒たちの興味を高めて、“OK, everybody. Let's watch video.”と、Unit 4のストーリーの実写映像をテレビに映した。約3分の映像を一度も止めることなく流す。

映像を視聴した後は、「指さし読み」で大まかな内容をさらにつかんでいく。三枝先生がUnit 4の本文を音読するのに合わせて、生徒たちは教科書の文章を指でなぞりながら黙読。続いて、本文の内容に関する設問が載ったワークシートが配られた。四つの設問が載っているが、生徒たちの鉛筆はあまり動かない様子。そこで、三枝先生は「よし、じゃあ、もう1回映像を見てみよう」と再び映像を流した。

その後、答え合わせをするが、この時点ではまだ、内容の理解度にばらつきがあるようだ。ここで、三枝先生が新たなプリントを配布した。Unit 4の本文が載っており、“there are”の部分が



三枝先生の音読に合わせて、「指さし読み」で本文全体の内容をつかんでいく。



グループになり、山梨の名所を英語で表現してみる生徒たち。単語は出るが、文の組み立てに苦戦しているよう。

赤色、“have to”の部分が青色で強調されている。Unit 4で学ぶ重要表現だ。三枝先生は「色分け部分に注目して聞きましょう」と話したうえで、再び音読。生徒たちは真剣な表情で「指さし読み」に取り組んだ。

**Unit最後のページへ飛び、  
到達目標を明確に**

続いて、Unit 4最後のページにある「You Can Do It!」に飛び、セントラルパークについて紹介するブログの英文を三枝先生が音読。その後、「皆さん、山梨にはどんな名所がありますか」と問いかけた。「富士山」「富士五湖」などの声上がる。「では、そういった山梨の名所を英語で紹介してみましよう」と三枝先生。日本語が飛び交い、すかさず“In English!”とくぎをさした。生徒たちはグループに分かれて話し合う。“Mt. Fuji”などの単語は出るが、文の組み立てにかなり苦戦しているようだ。

最後に再び、三枝先生がブログの英文を紹介した。“There is a great park in New York City. It's Central Park.”「このような感じで山梨のことを説明できるようになるといいですね」と話し、生徒たち全員で扉に載っている三つの目標を音読。単元のゴールを確かめた。

ここで授業は終了。活動が盛りだくさんにもかかわらず、あっという間の50分だった。